



HITOTSUBASHI UNIVERSITY

履修ガイド2014年度版

GenEP

一橋大学

ジェンダー教育プログラム

新学期を迎えて、どんな授業を取ろうか履修計画をたてながら心躍らせていることでしょう。ここではみなさんの授業選びの参考に、2007年度から一橋大学で始まったジェンダー教育プログラムのカリキュラムをご紹介します。

GenEPとは？

(Gender Education Programの略)

一橋大学では、2005年度より、全学的なジェンダー教育の推進、ジェンダー研究の活性化を目指した活動に取り組んできました。2007年度にはその推進母体として社会学研究科内にジェンダー社会科学研究センターを開設し、毎年およそ55科目、4200名の学生・院生のみなさんにジェンダー、セクシュアリティに関わるさまざまな授業を提供してきました。このような全学的プログラムはとてもユニークなものであり、多種多様な分野にまたがってこれほど多くのジェンダー関連科目を提供できる大学は一橋大学のほかにはありません。将来さまざまな分野で活躍するであろうみなさんが、全学共通教育から各学部・大学院科目にまでいたるこのジェンダー教育プログラムに積極的に参加されることを期待しています。

ジェンダー社会科学研究センター内GenEP部門

<http://www.gender.soc.hit-u.ac.jp/>

GenEPはジェンダー理論の学習を支援します。みなさんが男女共同参画社会の実現をめぐる問題に気づき、解決に必要な知識、能力、手法を身につけるためのカリキュラムを提供します。GenEPの道案内を頼りに、自らの関心をおおいに生かして、それぞれ自分のジェンダー教育プログラムを組み立て、授業を履修してください。

目指す
ゴールは…

- ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的知識を身につけ、その理念と方法を体系的に修得する
- さまざまな専門領域にジェンダーの視点を積極的に導入し、市民社会を解明する視座を構築する

基幹科目群

ジェンダーを授業の主軸とする科目群。導入的科目から発展的科目へという積み上げ式の履修です。ジェンダーや男女共同参画にかかわる基礎的素養を身につけることを第一の目標にしています。さらに発展レベルでは独創的かつ先端的な研究の基礎となる理論や方法、当該研究分野に関する包括的な知見の修得をめざします。

連携科目群

ジェンダーがとりあげられる学際的な科目群。基幹科目群、および全学的な教育活動と連携しています。既存の社会科学・人文科学の枠組み・体系をジェンダーの視点から問い直していきます。

履修のツボ



緩やかなスロープ？連携？

積み上げ式の基幹科目群と学際的な連携科目群の二つの科目群を相補的に履修することができます。全学共通教育、学部教育から大学院修士・博士後期課程の教育にいたるまで、緩やかなスロープを上るように学んでいけるカリキュラムがつけられています。



キャリアデザイン？

ジェンダーや男女共同参画についての素養は、自分自身の価値を高め、将来像を思い描くことを助け、みなさんが市民社会や企業において構想力を発揮していくための力となるはずです。



労働・経営・ジェンダー？

2005年に行われた「一橋大学における男女共同参画に関する学生の意識・実態調査」で多くの学生から受講希望のあった「労働とジェンダー」、「経営とジェンダー」をテーマとした講義が新設されています。ジェンダーをより身近にとらえ、自らのキャリアデザインを具体的に描いてみてください。



新しい社会科学？

それぞれの専門的知見を深め研究を発展させていくなかで、ジェンダーの視点から既存の社会科学のディシプリンに揺さぶりをかけ、新しい社会科学の地平を拓くことをめざしています。

履修者の声

これから社会人として生きていくうえで大切なことを考えるよい機会になった。

性について、
これほど学問的に
深く考えたことはなかった。
新しい思考法を
身につけられた気がする。

大学の中にも
「男は」「女は」という
言説があふれている。
たくさんの学生、
特に男子学生に、
受けてほしいと
思った。

自分の中の偏見や先入観の存在に
気づくことができた。
ちまたにあふれる性に関する情報を
批判的に見るできるようになった。

学内リンク

一橋大学には、学生生活で困ったこと、悩んでいること、就職のこと、なんでも相談できる場所があります。
学生支援センター <http://www.hit-u.ac.jp/shien/counseling/shien.html>

■学生相談室

第2講義棟1階西側「いまここ」HP
<http://www.hit-u.ac.jp/soudan/counseling/>

■キャリア支援室

本館1階
http://www.hit-u.ac.jp/shushoku/career_support/top.html
大学院部門HP
<https://sites.google.com/a/r.hit-u.ac.jp/careersupport/>

■ハラスメント相談室 第1講義棟1階東側

<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/soudan.html>

セクシュアル・ハラスメントガイドライン

<http://www.hit-u.ac.jp/sekuhara/guideline.htm>
相手の望まない性的な言動やジェンダー(性別)役割を押しつけることはセクシュアル・ハラスメントになります。一橋大学はその防止と排除のための措置、また問題が生じた場合の適切な措置のためのガイドラインを定めています。

学部

基幹

科目群

ヒューマンセクソロジー

【共通／夏－火2】

村瀬幸浩

男女が互いに人権を尊重しつつ手を携えて生きる社会の実現について、性（Sexuality）の分野に引き寄せて考えます。青年期の性的教養としての性の生理、エイズ・性感染症などの性の病理を学び直すとともに、性の多様性、性の暴力など、「人権」としての性を追求します。

ジェンダーから世界を読む

【共通／夏－木3】

早坂静／オムニバス講義

さまざまな時代、地域、言語文化を専門とする講師陣が、「ジェンダー」という視点を共有して、「世界」のありようを多角的に読み解くリレー講義です。いろいろな言語文化のなかのジェンダーを読み解いていきます。

ジェンダーと人権

【共通／冬－月3】

辻村みよ子・谷田川知恵

社会や法におけるジェンダー（性差）、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点（「ジェンダー人権論」）からアプローチします。憲法や女性差別撤廃条約、男女共同参画社会基本法等を踏まえて、日本の男女共同参画（ジェンダー平等）の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治・雇用・家族・学術分野等の領域ごとに具体的に検討します。

ジェンダーと社会

【社・基礎／夏－火3】

佐藤文香

ジェンダー研究の基礎概念をおさえた上で、家族・労働・性愛・暴力などのテーマごとにジェンダー視角から社会へとアプローチする方法を学んでいきます。

家族社会学

【社・発展／夏－木3】

木本喜美子

現代社会がかかえる問題をあきらかにするために、家族の歴史変動過程を重視し、その把握と解析方法をめぐって理論的立場を異にする見解に検討を加えていきます。ジェンダー・アプローチが焦点となります。

ジェンダーとセクシュアリティの心理学

【社・発展／冬－水2】

柘植道子

ジェンダーとセクシュアリティにまつわる問題を心理学の視点からアプローチします。セクシュアル・マイノリティ、ジェンダー・ステレオタイプ、ジェンダー役割負担、性役割態度、性差、ジェンダーとメンタルヘルス、心理学研究におけるジェンダーバイアスなどのトピックを扱います。

ジェンダー論

【社・発展※／冬－火3】

佐藤文香

ケア・国家・軍隊・ポルノグラフィ・法など、ジェンダー関係の再編をめぐってフェミニズムの中に蓄積されてきたいくつかの争点を、理論的立場の相違として考察していきます。

アメリカ社会史特論

【社・発展※／冬－木2】

貴堂嘉之

授業ではアメリカ・ドイツ・イギリス・日本の優生学運動/優生思想を取り上げ、これら各国に共通する思想基盤・運動特徴を理解し、優生学運動の世界史の見取り図を描き、その根底にある「選び捨て」のイデオロギーがいまだ呪縛する現代社会の問題群を理解することをめざします。

社会調査特問

【社・発展※／冬－木3】

木本喜美子

社会調査にとって質的調査がもつ意味とその分析方法について理解することを目的とし、質的調査において生じがちなバイアス問題、とりわけジェンダーバイアス問題を念頭におきながら、講義します。取りあげるジャンルは労働研究が中心です。

学部

連携

科目群

全学共通科目

頻度	曜日・時限	講義名	担当者
○	夏－木2	歴史学	石居 人也
○	夏－火3	キャリア形成論（業種別）	西山 昭彦
○	夏－水2	英語圏地域文化論（イギリス）	河野真太郎
○	夏－木4	ダイバーシティ時代のキャリアデザイン	西山 昭彦
○	冬－火1	現代スポーツ論	坂 なつこ

学部

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
◎	経・発展	夏一月・水3	労働経済学	川口 大司
○	法・基礎	冬一月・水2	憲法第一（人権）	只野 雅人
◎	社・導入	夏－木2	社会研究入門ゼミ	伊藤 るり
★	社・導入	夏－木4	社会研究入門ゼミ	佐藤 文香
○	社・導入	冬一月4	社会研究入門ゼミ	森村 敏己
◎	社・導入	冬一月3	社会研究入門ゼミ	坂元ひろ子
○	社・基礎	夏一月3	スポーツ社会学の基礎	坂 なつこ
◎	社・基礎	夏－水2	国際社会学Ⅰ	伊藤 るり
○	社・基礎	夏一金2	人間環境論	林 大樹
○	社・基礎	夏一金3	社会と文化	洪 郁如
○	社・基礎	夏一金4	政治思想	田中 拓道
○	社・基礎	冬－火3	政治学	中北 浩爾
○	社・基礎	冬－水2	社会学理論	多田 治
○	社・基礎	冬一金3	教育社会学	中田 康彦
◎	社・発展	夏－水2	アメリカ社会史特論	武井 寛
◎	社・発展※	冬一月3	国際社会と文化	鄭 暎恵
○	社・発展	夏－水2	身体社会史	尾崎 正峰
○	社・発展※	冬一金4	比較政治	田中 拓道

大学院

◆基幹科目◆

先端課題研究14 ジェンダー研究の過去・現在・未来

－女性学・ジェンダー研究のパイオニアに対する聞き取り調査を中心に－

【通年－水3】

伊藤るり・佐藤文香

3年間にわたって教員と大学院生が共同研究する参加型プロジェクトです。女性学の先駆者や、社会科学の領域でジェンダーやセクシュアリティの視角をとりいれたパイオニア的研究者に聞き取り調査をして、学びます。

社会科学のなかのジェンダー

【夏－木2】

貴堂嘉之・佐藤文香／オムニバス講義

既存の社会科学/人文科学のディシプリンとジェンダー研究とを融合させて、ジェンダー視点を組み入れた社会科学の新たな可能性を切り拓くことを目的としたオムニバス形式の講義です。

社会学／地球市民とジェンダー

【夏－金2】

木本喜美子

英語圏で高い評価を得ているジェンダーの社会学に関するテキストを輪読し、ジェンダー研究の基礎知識を確認するとともに、21世紀の社会学の課題について討議によって深めます。

平和とジェンダー／社会学

【冬－木4】

佐藤文香

ジェンダー研究の洋書講読を行います。平和に対するアプローチの独自性や課題について考察していきます。

◆連携科目◆

頻度	学部・区分	曜日・時限	講義名	担当者
◎	社	夏－火2	アメリカ研究	貴堂 嘉之
◎	社	夏－火4	文芸思想研究	井川ちとせ
◎	社	夏－火4	アジア社会史Ⅱ（近現代）	坂元ひろ子
◎	社	夏－水2	トラウマと地球社会	宮地 尚子
◎	社	夏－水3	地球社会特論Ⅰ	晏 妮
◎	社	夏－木2	国際社会学特論	伊藤 るり
◎	社	冬－月3	国際社会と文化	鄭 暎恵
◎	社	冬－月3	多文化環境教育論	太田 美幸
○	社	冬－木4	社会学	多田 治

<講義におけるジェンダー関連の問題を取り上げる目安>

★：講義全体をジェンダーの視点から構成する

◎：ジェンダーを講義の一つの柱とする

○：ジェンダーについて1，2回取り上げる

＊は学部・大学院共修。

委細は各授業のオリエンテーションで確認してください。また履修登録の際には、学習計画ガイドブック(学部)／学生便覧講義要項(大学院)に従って下さい。